

平成 29 年度 事業報告書

介護老人福祉施設ブエナビスタ

ブエナビスタ（特養）

1. 基本方針

（1）生活の場としての施設支援

利用者の方々が安心して生活できるように、居室・生活スペースの環境整備を行った。

（2）個別ケアへの取り組み

一人ひとりの心身の状態を観察し、ユニット単位・フロア単位での把握を行なった。ケアプラン作成時には多職種で意見を出し合い、解決すべき課題には優先順位を付けて取り組んだ。

（1）生命に関すること

（2）利用者・ご家族の要望

（3）その他優先すべき解決課題

以後、状態に変化（疾病、事故、褥瘡形成等）が見られた際、要介護度に変更があった際、ご利用者やご家族から希望があった際、期限が満了した際には担当者会を開催しご利用者とそのご家族が満足できるように対策を行った。

（3）職員研修の実施

職員の育成と教育のため、年間を通して計画的に職場内外での研修に取り組んだ。施設外研修では、職員が階層別研修、専門的ケア研修に参加し、社会人、組織人としての基本的な考え方や福祉の専門職としての知識・技術のスキルアップに努めた。

施設内研修では、外部研修で習得した知識・技術を踏まえ各専門職、必要に応じて外部講師を依頼し全体会を行なうことで、知識・技術の向上に努めた。

2. 介護方針

（1）離床対策

共同生活スペースにて食事をして頂くことで寝食分離に努めた。自力にて座位の安定が保持できない方に対しては車椅子の選定を実施し、離床時間を確保するように努めた。

（2）認知症入居者への対応

施設内外の研修と通し、認知症ケアの知識を深めることに努めた。また、それらの知識が活用できるように全体会を通じて理解を深めた。

BPSD に対するケア方法については、適宜ユニット会等での情報収集・共有を図るとともに、ケア方法の周知徹底に努めた。

施設内の生活状況の把握のみでなく、入所前の生活状況や性格などご家族からの情報も踏まえた上でのケアに努めた。

(3) 身体拘束廃止、虐待防止の推進

身体拘束防止委員会、虐待防止委員会を中心となり全体会を通し、身体拘束・虐待に対する職員の意識を高めた。平成 29 年度も身体拘束事例は 0 件で、虐待事例も無い。

(4) 在宅支援

平成 29 年度は在宅復帰された方はいなかったが、カンファレンス時などご家族の意見も聞きながら、6 ヶ月毎の担当者会を通じて在宅復帰の可能性について検討した。

3. 生活援助方針

(1) 食事

平成 29 年度の毎日の食事内容については、管理栄養士が食事をしている場に出向き喫食の状況や意見の聞き取りを行った。(年に数回委託業者の栄養士同行)嗜好調査を年 1 回行うとともに毎月の給食委員会で職員・利用者の両面からの聞き取りを行い検討した。

食事の安全性については異物混入などがあったが、その都度委託業者に今後起こさないための対処療法について考えてもらい着実に再発防止に繋げていった。

栄養ケアマネジメントについては食事をしている場に出向くことによりユニットで取り組んでいることなどを計画書等に反映することができた。

食事摂取量・咀嚼・嚥下に問題のある方に対し、委託業者と話し合いと調整を行い「ソフト食」を提供することができた。

今後、各ユニットと協働し、そのユニットに適した食事の演出に努めていきたい。

(2) 口腔ケア

ラムザ歯科・フリージア歯科の医師の指示のもと、歯科医・歯科衛生士から支持を受けることで専門的なブラッシングを行うことができた。

自力でブラッシング出来る入所者においても磨き残しの有無などについて指導を受け入所者の口腔維持に努めた。

(3) レクリエーション・クラブ活動

施設全体の行事として、敬老会・餅つきを行った。敬老会では地域との連携を持ちボランティアとして外部出し物を行っていただいた。

また、ユニットごとのレクリエーションとして花見やドライブ、喫食レクリエーションなどに取り組んだ。

(4) 排泄ケア

ユニ・チャームよりオムツアトバイザーを講師として全体会を行い、排泄介助の技術向上に努めた。

1 日 1 度以上の陰部洗浄をユニットリーダーが主となり実施することができた。

(5) 入浴

週 2 回の入浴を基本に行った。入所者一人ひとりの身体・精神状態を把握した上で、個浴・特浴の選定を行った。

入浴時間においては、一般的な生活の観点から着脱を含め一人 30 分以上の入浴時間を設けることとした。入所者からの要望もあり、必要に応じて同性介助も一部実施することができた。

(6) 個別機能訓練

平成 29 年度は機能訓練指導員が不在であり、個別機能訓練を実施することができなかった。

(7) 褥瘡予防ケア

入所時、退院時、3 ヶ月毎に OH スケールにて褥瘡の危険度判定を行い、高リスクの入所者については除圧の為の物品確認や体位変換、離臥床時間の確認などを行い発生防止に努めた。

また、栄養面として、きなこ牛乳や補食、高カロリー飲料などの使用検討も行った。褥瘡発生時には必要な医療処置とともに、栄養、介護技術が協働し褥瘡の治癒に努めた。

(8) 事故防止

介護事故報告書提出事故件数は 8 件であった。ヒヤリハット 1 は 44 件、ヒヤリハット 2 は 222 件であった。内容では転倒が最も多かった。発生場所では居室が最も多く、続いてリビングであった。発生時間については、午後 1 時～2 時台にかけてが最も多く、次に午前 9 時～10 時台にかけてが多かった。事故の発生データに基づき傾向を把握すると共にヒヤリハット 1 の掘り起こしの強化が課題である。

(9) ケアプラン

包括的自立支援プログラムを活用しケアプランを作成した。事前にご本人・ご家族の意向を聞き取り、担当者会参加を促しながらケアプラン作成に努めた。

作成の、施設として①生命に関すること②ご利用者・ご家族の意向③その他優先する課題と優先順を設け作成にあたった。入所者の状態変化が見られた際には随時担当者会を開催し入所者ニーズに沿ったケアプランとなるように努めた。

4. 医療と介護

(1) 健康管理

入所者の体調変化が見られた際には、報告・連絡・相談を行い、早期発見・早期対応が行えるように努めた。毎週月曜日に行われる朝礼にて入所者の状態報告を行い施設全体での状況把握を行うことができた。

衣服や寝具の調整や、飲水状態の観察など基本的なことからの促しを行い入所者の生

活が穏やかなものになるように努めた。

年1回の入所者健診とともに、月1回の往診を実施し健康管理に努めた。

(2) 施設内の感染予防

入居者・職員のインフルエンザ発生時には、事前に承諾書を取ることで、濃厚接触者を中心にタミフルの予防投与を速やかに実施し、感染の拡大を予防した。その結果、入居者の感染者に関しては、H.28年度は利用率約50%でインフルエンザ罹患患者11名であったのに対し、29年度は利用率約80%でインフルエンザ罹患患者8名(感染者頭数7名)と有意に減少した。

感染性胃腸炎に関しては、全体会にて適切な吐物処理方法や、感染リスクのある衣服・リネン類の処理方法を徹底し感染拡大に努めた。

感染症流行時期には職員は勿論のこと、面会者にも手指消毒とマスク着用を促し感染症を持ち込まないことにも努めた。

5. 利用者の状況

平成 30 年 3 月 31 日現在

① 現状

		男	女	計
異動状況 H29.4.1 ～ H30.3.31	入所	12	33	45
	退所	8	22	30
年 齢 構 成 H30.3.31 現在	60～64	1	0	1
	65～69	1	1	2
	70～74	0	3	3
	75～79	3	6	9
	80～84	7	14	21
	85～89	2	19	21
	90以上	8	26	34
計				91

② 入退所の状況

	入所前の状況			入所者数 計	退所者の状況					退所者数 計	月末 在籍 者数
	在宅	病院	その他 (他施設から の転入等)		社会 復帰	家庭 復帰	医療機関 入院	その他 (他施設から の転入等)	死亡		
H29年 4月	0	4	0	4			1		0	1	79
5月	2	1	1	4			1		2	3	80
6月	0	3	1	4			1	1	5	7	77
7月	2	4	1	7			0	1	2	3	81
8月	1	1	0	2			1		1	2	81
9月	1	0	1	2			0		2	2	81
10月	0	0	0	0			0		3	3	79
11月	2	4	0	6			1		0	1	83
12月	1	4	1	6			0		1	1	88
H30年 1月	0	0	0	0			0		1	1	87
2月	1	2	4	7			0	0	2	2	92
3月	0	3	0	3			0		4	4	91
計				45	計					30	

④ 外泊状況

外泊回数	男	女	計
0	22	66	88
1	0	1	1
2	0	1	1
3	0	0	0
4	0	1	1
5回以上	0	0	0
合計	22	69	91

対象者：平成 30 年 3 月 31 日在籍者

期 間：平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

⑤ 特養入居の利用者数

【平成 29 年度利用者数の月別推移】

利用 者数	月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月		
本入居		2,149	2,209	2,072	2,174	2,424	2,343		
利用 者数	月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	平均 利用率
本入居		2,404	2,380	2,608	2,641	2,314	2,645	28,363	80.9%

【平均利用率推移】

年度	H.28 年度	H.29 年度
平均稼働率	50.5%	80.9%